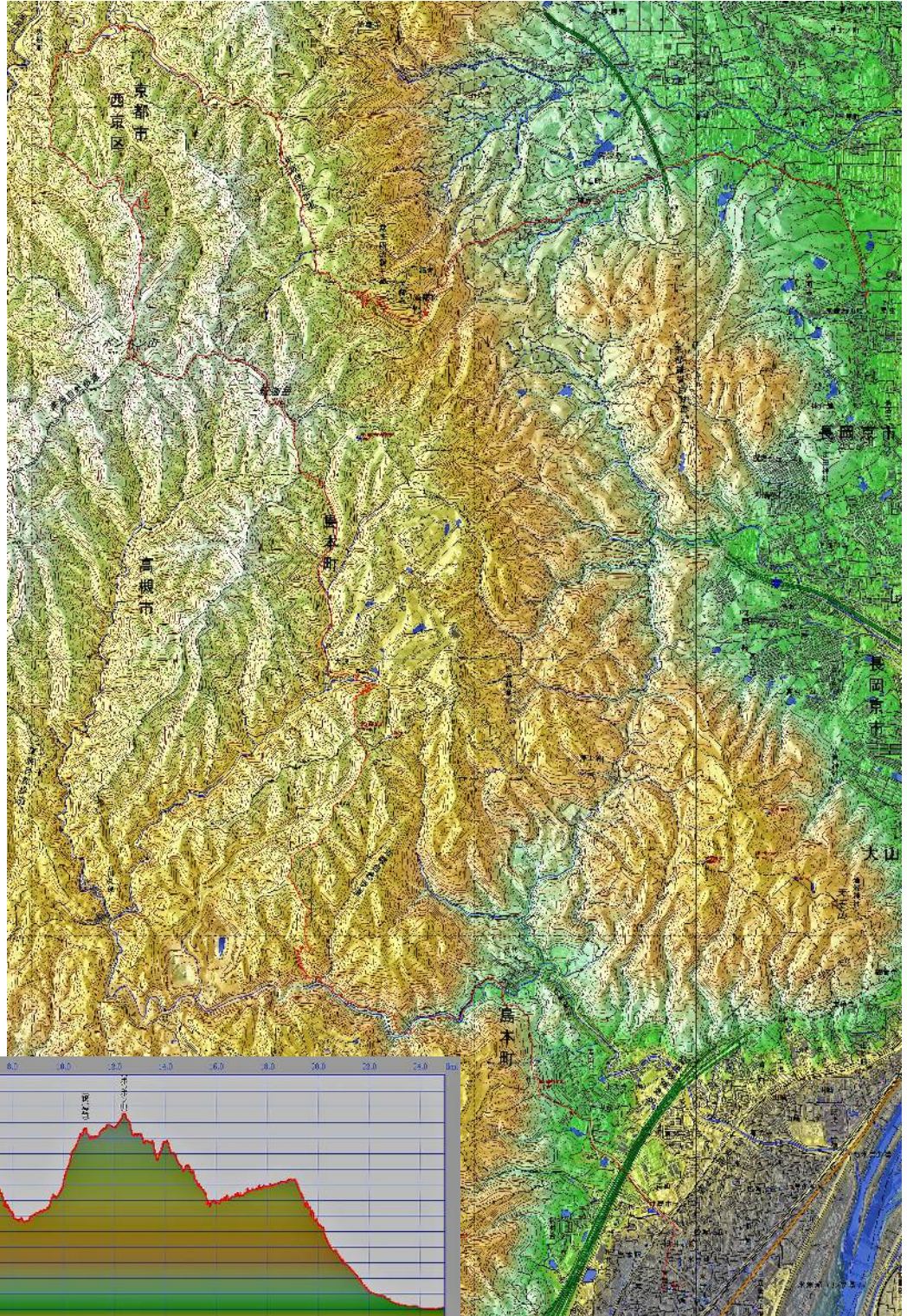


2018年2月23日(金)晴 北摂「向日山・ポンポン山」 単独行

コース距離：25.7 km、 所要時間：8時間40分（休憩含む）

コースタイム：自宅(7:34)→(8:04)若山神社→(8:17)尺代→(8:48)登り口→
(10:17)向日山→(11:27)大杉→(11:44)釈迦岳→(12:18)ポンポン山
ポンポン山【食事休憩】(12:51)→(13:13~13:33)福寿草群生地→
(14:12)森の案内所→(15:14)善峰寺→(16:14)光明寺BS

* 山行軌跡



* 行程グラフ



山行記：

今日はポンポン山の北西尾根に福寿草が咲いている情報を視て、向日山にもご無沙汰しているので向日山を經由してポンポン山へ。

自宅から大沢には何時も3時間程掛かっている、自宅を7時34分に出立して若山神社から尺代に入り水無瀬川を遡って行くゲートには立ち入り禁止が表示されているが、奥からご婦人のグループが戻って来られている。

挨拶を交わし奥に進んで行く、崩壊場所が登り口近くに2ヶ所あり乗り越えて行き登り口より山へ入って行くと谷に出合、渡って行くと大阪環状自然道であるがそこには行かず左の巡視路に入っていく。

奥の谷筋に出ると倒木が出てきて谷を渡る栈橋が大量の倒木で塞がっている中を何とか渡りきり尾根を目指して登って行き一つの送電線鉄塔に出る、ここまで来ると歩き易い尾根道になる。

テレビ大阪の電波塔の前を通過し向日山中継所の電波塔を目指して進んで行く、中継所の奥に向日山の三等三角点がある、此処から大沢のスギを目指して左側の尾根を下る事にする少し下ると微かに踏み跡が在り50m下ると林道に出会う道は所々崩壊箇所があり車は通れないが歩いて下るのは楽だ。

林道を下ると「大沢のスギ」の横に出られた、大沢の集落から釈迦岳への登り口がある林道に入り大杉に、西山古道側から一人釈迦岳方向に先行されて歩いて行かれる、釈迦岳は島本の最高峰で京都府との県境に位置する。

釈迦岳で小休止してポンポン山を目指す、昼過ぎにポンポン山に到着し食事休憩を摂ってから北に延びている尾根に行く、リョウブの丘に着くが花は咲いていないフクジュ草はもっと先のようなだ。

先へ進むとお知らせの表示がありここから中に入ると道は一方通行で通る表示に従い進むと監視員が居られた左にフクジュ草が咲いているが真すぐに道もついていてグループが下りて行かれて監視員に尋ねると下に川があり飛び石で森の案内所に近道で行けるとの事、

私は左の花が咲いている所へ、入口に戻り尾根を森の案内所へと進む、尾根道からは出会う川には橋が架かって水中に入る事はない案内所で先行のグループに合うのではと思ったが出会わなかった、案内所からは一般道に、430m地点で金蔵寺への標識があるが真すぐにも道がある、迷ったが真すぐの路へ東海自然歩道である先は善峰寺に行ける道だ、前からグループが歩いて来られるフクジュ草の場所から下へ降りられたグループだ。

森の案内所に行かず川から東側の尾根を越えてこちらに降りられて来られた様だが何処へ行かれるのが疑問だ金蔵寺から灰方なのか登りが大変だが、善峰寺へも長い道のりがあり寺の近くからはバスの時間もあり急坂を降りる、途中に三鈷寺に回り込む道があったが車道を選択はきつすぎたようだ。

善峰寺バス停に着いたが時刻表はカバーがされている、印刷して来た時刻表をよく見てみると2月末までは運休中でバス停には灰方へ行くように示されている、仕方なく栗生に向かい光明寺からバスに乗る事にして歩いて行く、森の案内所からアスファルトの道を長距離歩くことになった。

今日は長距離で長時間の歩きで足を棒にしながらバス停に着き帰宅する。



大阪環状自然歩道登り口



沢山の倒木が被さっている



尾根は歩き易い



送電線の鉄塔



テレビ大阪電波塔



電波中継局



向日山の三角点
大沢のスギ樹齢800年の古木



大沢の早尾神社



大杉（西山古道出合）



釈迦岳（島本の最高峰）



ポンポン山の山頂



三郎ヶ岳から愛宕山方面



京都市街方面



フクジュ草の標識



フ ク ジ ュ 草



雪が残る下山道



下山道より小塩山方面



十輪寺参道



下山道より白い皆子山が観えていたが写真では見えにくい